

紀要発行50周年を祝う

こども学科長 大沼 徹

本学の創設とともに発行された紀要が、最初の発行から本年度の号で50周年を迎えることになった。大変めでたいことである。現在の紀要は、短期大学の改組により各学科のものが統合された形で14号発行されたが、以前のものを合わせて50年の間、本学の研究機関としての、また教育機関としての任務遂行のために多大な貢献してきたのである。

現在は、執筆区分が「研究論文」「研究ノート」「授業研究」等に分けられ、学術研究の深化、新しい事実・知見の発見と創造が公表されるとともに、将来の研究成就のためのアイデア、素材、資料、プランが記されている。また「授業研究」では、教育の改善、優れた指導法の共有にも役立てられている。ちなみに、この14年の、こども学科教員執筆の論文等掲載数は、三区分等合計で60篇、多数の投稿があったことは大変喜ばしいことである。

自分自身について言えば、『初等教育科紀要』に3篇執筆した。平成3年の「フライ捕りの時間性素描」、これは野球教授学の一部であると同時に、現象学的方法による「教育人間学」研究のための方法論的エチュードである。平成8年の「野球の打撃におけるバット軌跡の差違とスイング様式—日本人選手とキューバ人選手の差違に着目した解明—」では、両者の打撃の違いを解明し、日本人の欠点を明らかにした。現在、プロ野球で活躍している多くの打者は本論の指摘に適合する打撃をしている。平成9年は「斎藤喜博の芸術論—彼の教育実践理解に向けての一考察—」である。平成28年まで本学科の「入学者受け入れ方針」中の「目指す教育」に掲げていた、「ものごとを自分の目で見、自分の頭で考えて」の表現は、この論文中の斎藤の教育が目指す人間像、「リアリスト」についての表現から得たものである。

こうしたことも紀要の存在に負うこと大である。紀要のさらなる充実とともに、本学のますますの発展を期したい。